

安藤 孝敏

横浜国立大学教育人間科学部・大学院環境情報研究院 教授

団地に暮らす高齢者への情報伝達手段に関する研究

本研究の目的は、高齢化した団地で暮らす社会的に孤立した高齢者に、必要とされる情報を効果的に伝達するための手段を明らかにすることであった。まず、高齢化した団地で先進的な取り組みをしている高島平団地の高島平新聞社と札幌市の五輪団地自治会へのインタビュー調査を実施した。次に、高島平団地の住民を対象に、生活情報の取得に関する質問紙調査を実施した。インタビュー調査では、情報を共有することが地域住民間の交流に役立つと認識されていることが明らかになった。また、主な読者である高齢者を意識した紙面作りがなされていることも分かった。質問紙調査では、孤立の防止に役立つような老人会や町内会、各種講座の情報は、タウン紙から取得している高齢者が多いことが明らかになった。また、タウン紙購読の関連要因の分析結果から、古くからある地域情報総合紙は居住年数の長い人に読まれていること、地域のイベントなどの情報に特化したタウン紙は女性に多く読まれ、一人暮らしの人にはあまり読まれていないことが把握できた。高齢者の社会的孤立を防ぐために、タウン紙によって情報を伝達することが有効だと考えられるが、伝えたい情報の種類や伝達の主対象を考慮し、それぞれ性格の違うタウン紙を媒体として選択することの重要性が示唆された。